

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトサンギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107500
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	アスリートインターンシップ
	学部・研究科等名	共通教育推進機構
	担当教職員名・役職	■教員 2 名 伊吹 勇亮准教授（経営学部）、松尾 智晶准教授（共通教育推進機構） ■職員：キャリア教育センター 3 名 松本 翔伍、佐尾 瑠衣花、阿部 恵子
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	24
	受入企業等数	11
	受入企業等名	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)、他10社
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 11.その他
	上記以外のインターンシップの分類（記述欄）	体育会クラブ所属2、3年次生が対象のインターンシップ
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	本科目の就業体験は1月末～2月の5日間以上の実習とし、学生アスリートとして培ってきたPDCAサイクルを主体的に回す能力や瞬時の判断力等を実社会で実践する場として位置づけている。実習最終日には実習先企業から提供されたテーマと自ら設定したテーマの両方を発表・報告する。実習内容は「対面」では取引先への営業同行、現場視察、事務作業、テーマに対する報告準備、「オンライン」では事業概要説明と質疑応答、社員懇談会とインタビュー調査、提案書作成・発表、提供されたテーマに対する報告準備を行う。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容		
2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年	

要素②		大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	本科目は、体育会クラブ所属の全学部2、3年次生を対象に、共通教育科目（キャリア形成支援教育科目）として開講し2単位を付与する。協力企業における5日間の就業体験（1月末～2月）とその前後に学内で実施する「事前学習（8コマ）」「事後学習（3コマ）」では社会性向上と部活動で培った能力を活用する実践的な学びを提供し、競技生活で日々研鑽する強みの自覚と活用、就業観に基づき進路選択をする力を養う。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全8回の事前学習では、一般的なビジネスマナー研修は必要最小限に留め、学生アスリートの強みである「目標達成に向けたPDCA取組サイクル」「瞬時の判断力」の自覚に重点を置き、ゲスト講師による講義、ケーススタディ、企業分析等を通じて、学生アスリート特有の活動理解や自身の強み、その活用について理解促進を図り実習の学修成果向上につなげている。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	就業体験及び本科目における学びの振り返りと言語化に重点を置き、企業担当者を招いた成果報告会を行っている。振り返りにおいては、学生の実習期間中に企業訪問をして得られた情報をもとにした的確なフィードバックを通じて、学びを深める工夫を行っている。	

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	学生の実習期間中に企業を訪問し、企業担当者に「学生の取り組み状況」等をヒアリングした後、実習生が訪問先で実習している際は、「実習内容」「業務の進捗状況」「実習における学び」等についてヒアリングをしている。また、担当者との意見交換を行い、モニタリングや担当者との意見交換で得た情報を、担当教員に共有することで、事後学習における学生に対するフィードバックの質を向上させる工夫を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み		
4-3.上記回答内容に関する詳細	本科目の学習到達度（成果）等を把握することを目的に、事前学習開始前・事後学習終了後に2回実施をする「リアセック社のPROGテスト」、事前学習終了後に実施をする「30分間の半構造化面談（文字起こしとテキスト分析）」により、学習到達度（成果）等の把握を行っている。前者においては、「リテラシー」と「コンピテンシー」について調査する。全2回のデータをもとに事前と事後での比較を行い、その結果を外部の専門家より、受講生にフィードバックする機会を設けることで、学修成果の可視化、将来のキャリアビジョンの形成に役立てられるようサポートしている。後者においては、本科目受講後に受講生との半構造化面談から得られた情報を分析し翌年度のカリキュラム改善に繋げている。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	実績として富士フイルムビジネスイノベーションジャパン(株)、他10社において、5日間のインターンシップを行った。
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している

要素⑥		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		6.企業と協働して、P D C Aを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	企業開拓時に、企業・大学それぞれのニーズを擦り合わせ、企業任せではなく協働で実習内容を作成している。就業体験では、体育会学生の強みである、「目標達成に向けた取り組みサイクル」「判断力」という強みを実社会で発揮させるために、実習先からテーマを設定いただき、競技と実社会の繋がりを理解させる。また、実習後に企業から「実習生評価票」「アンケート」を提出いただき、その内容をもとに企業を訪問し、振り返りや次年度に向けた改善等についての摺り合わせを行う。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus/html/2021/6.html
問い合わせ先	大学等名	京都産業大学
	担当部署名	キャリア教育センター
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	075-705-1754
	メールアドレス	cwie-center@star.kyoto-su.ac.jp